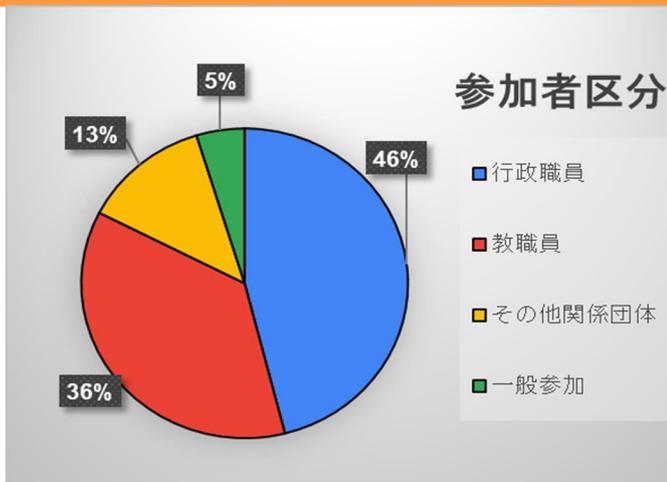


誰一人取り残さない地域社会の創造～障がいのある人の人権～

事業の内容

- 1 事業名 令和6年度（2024年度）法務省人権啓発活動
地方委託事業「人権教育指導者研修会【札幌会場】」
- 2 日時 令和6年12月5日（木）13：30～16：15
- 3 場所 道民活動センタービル かでる2・7
(web 会議システム Zoom)
- 4 人数 会場14名、オンライン49名



I プログラム

13:30	13:40	15:30	15:40	16:10	16:15
開校式	「講義・事例発表」 (110分)	休憩	意見交流 (30分)	閉校式	

<p>【講義】 「障がいのある人の教育や福祉に携わらせていただいて」</p> <p>【講師】 社会福祉法人あむ・地域ぬくもりサポートセンター 小野寺 拓 氏</p> <p>※講義を予定しておりました社会福祉法人緑伸会の村岡氏が体調不良により欠席されたため、代わりに講義をいただきました。</p>	<p>【内容】 講義では、介護保険制度をはじめとする「障がい者支援の変遷」についてお話いただきました。</p> <p>また、障がい支援の事例についてお話いただきました。その中で、「ほんの少しお節介に見守る」がキーワードであり、地域の中で障がいのある人もない人も助け合える関係性を築いていく上で、重要だと話がありました。</p>
---	--



【事例発表①】

「札幌市手をつなぐ育成会について」

【講師】

一般社団法人札幌市手をつなぐ育成会
常務理事・事務局長 深宮 しのぶ 氏

【内容】

札幌市手をつなぐ育成会の活動である、知的障がい者の権利擁護活動の一環として行われた「せんきょを学ぶ会」、障がいある方の投票を支援する「分かりやすい選挙広報誌」や「選挙支援カード」の取組などをご紹介いただきました。

また、育成会の会員減少や障がい者従業員の高齢化など課題がありながらも、これから会を利用する方のためにも継続していきたいとお話をいただきました。



【事例発表②】

「グループホーム」、「地域ぬくもりサポート」
の実践を通して

【講師】

社会福祉法人あむ・地域ぬくもりサポートセンター
小野寺 拓 氏

【内容】

はじめに、「意思決定支援」など障害者権利条約に関してお話をいただきました。

その後、2つの事例を紹介いただき、「本人主体」「本人中心」と言いながらも、設備・制度・環境などの面から出来ない現状があるが、対話を通して、意思決定の主体として尊重していくことが大切であり、そのために「信じて、待つ」ことが重要だとお話がありました。



【意見交流】

【司会・進行】生涯学習推進センター

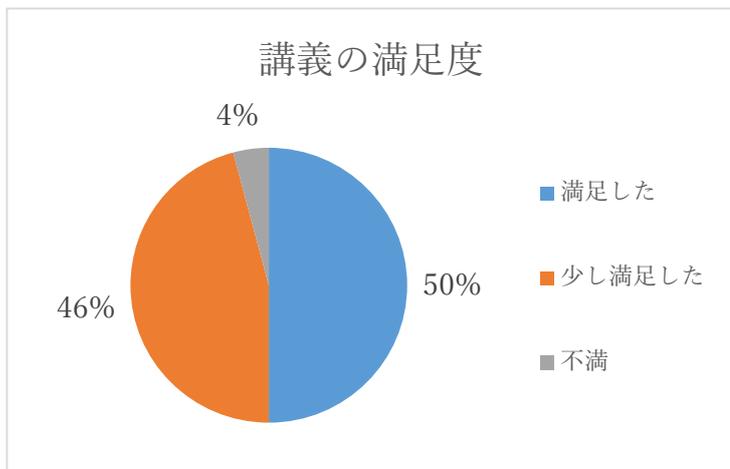
- ①皆さんが思う「障がいのある方の人権」とは
(講義・事例のなかで、キーワードだと思ったこと)
- ②障がいのある方と「共生」するために、私たちができることは

【内容】

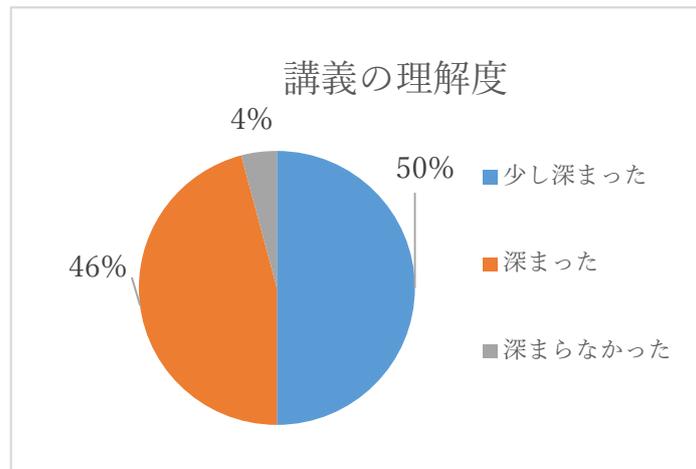
参加者は4グループ(3~4人1組)に分かれて、自己紹介とトークテーマに沿って意見交流を行い、障がいのある方の人権について意見交流を行いました。

Ⅱ アンケート結果

1 満足度



2 理解度



Ⅲ 参加者からの声

○ 今回の研修会に参加して一番大切だと感じたことは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・多様な人に幼児期からふれあうことが大切だと思った。
- ・理性的に考えること。
- ・自立と共生について。
- ・障がい者との共生について。
- ・障がい者の人権について。
- ・その人がしたいことを実現させてあげるための支援。自分の父親にはしてあげられなかった。
- ・主体は本人にあるので、支援する側はサポートであるということを実感して関わるのが大切。ちょっとしたおせっかい程度でも、本人には十分なサポートになる場合もある。
- ・お互いが支え合う社会の姿が想像できました。お互いに「お節介」できる社会がいいなと感じた。
- ・障がい当事者や保護者の声を聴くこと。
- ・本人（当事者）の意思を大事にすること。
- ・当事者の声を聞くこと、対話的に考えること。
- ・様々な問題を少しでも自分ごととして捉えること(本人主体)(本人中心)。
- ・正しい知識を持ち理解すること。今後、後続く子ども達のことを考えて、種蒔きと種を蒔ける環境をきちんと整備しておくことが大切だと感じました。
- ・第1講座のちょっとしたお節介が命をつなぐ、ほんの少しお節介に見守ってあげてくださいに感銘を受けました。なかなか私たちが気付けない、当事者の分からないこと、教えてもらえてないことに、理解を深めることができました。
- ・社会モデルの課題の大きさ。

- ・障害者だから出来ないではなく、どうすればできるようになるのかを考え、やってみることが大切ではないかと感じました。
- ・障がいの有無に関わらず、自他の人権を平等に考え続けていくこと。
- ・社会の構造による、障害者への排除について。
- ・障害があるからといって、その人が持っている能力を奪ってしまうことのないように、接することの大切さを感じた。
- ・子どもや障害者の人権の話聞き、共通して、意思決定支援について話題にあがっていた。もう少し深く学んでみようと思った。
- ・思ったことはやってみる（行動する）ことの重要さを思い知らされました。
障害をおもちの方への合理的な配慮はもちろん、意思決定の主体として尊重することが重要だと思いました。
- ・健常者と同じように人権について考えられるべきというのはベースとしてあるなど改めて確認しました。
また、小野寺さんの資料にあった「自らの意思が反映された生活」という言葉がとても心に残りました。障害者が「自らの意思が反映された生活」を送るために何が障壁になっているのか、クリアできる可能性はあるのかをご本人中心で考える、支援をオーダーメイド組んでいくことが、健常者中心の世界でご本人たちの人権を守りながら過ごしていくために必要なのだと思いました。すべての要望や希望は叶えられなくとも、一緒に検討していくことに意味があると思いたいです。支援者だけでなく、地域住民もここに仲間入りできるのがベストだけど、札幌のような大きな街だと大変なのか……？と課題も同時に感じました。
- ・支えている人たちの活動をこれからも繋いでいくこと、もっと多くの人たちに知ってもらうこと。

○ その他、感想やお気づきの点があればお聞かせください。

- ・手をつなぐ育成会に職場で加入していますが、なかなかその活動の具体までわからなかったので勉強になりました。今後も微力ながら応援させていただこうと思います。
- ・最近、関心の高い分野だったので、様々な事例を聞くことができ勉強になりました。
- ・権利の考え方は多様であり、日常の例から複数の方の考え方を知りたいと思った。昔より人権が尊重されていますが、至らぬ細かな点を参加者で探してみたい。
- ・障害をお持ちの子どもを持つ保護者の方たちの支援活動の実績には目をみはるものがありました。行政もさらに後方支援する必要があると思いました。
- ・貴重なお話をお伺いできてとても良い時間でした。定められていることから実践までお聞きできて、障がい者に配慮が行き届いていない場面はとても身近にあることだと再認識しています。私も含めて選挙広報のわかりやすい版は一般の有権者も助かる方が多いだろうと思いました。また、バリアフリーではなくユニバーサルデザインの言い換えはとても印象深かったです。なにも難しさやままならなさを感じているのは障がい者や高齢者だけじゃないと感じました。とても良いお話を聞いたあとのグループワークは、皆さんとお話がとても盛り上がりました。お時間設定もあるかと思いますが、もっと話したかったです！また、このような機会があれば参加したいです。運営の皆さん、講師の皆さんありがとうございました。
- ・交流会はとても有意義でした。